9月29日に百周年記念式典

くまざさ

第60号
発行
釧路湖陵同窓会
くまざさ編集委員会
発行日
平成24年3月1日
印刷所
藤田印刷㈱

不撓不屈の精神で

いよいよ今年は、開校100年という記念の年です。長内さんに「100年」に対する思いを聞いてみました。

長内さんは、1944（昭和19）年、釧路中学に入学した釧中33期生です。釧中に入学当時は戦時下にあり、戦闘帽、そして、足には白いゲートルを巻いて通学していました。2年生になると、進路別にクラスが分かれます。陸軍、海軍、就職、進学で、長内さんは海軍を志望しました。勤労奉仕は、根室管内にある西春別空港などでの作業でした。戦後、南大通にあった敷島館で中川久平さんから英語を教えてもらったこと、先生や先輩に鍛えられたことなどを懐かしそうに語ってくれました。

1986（昭和61）年から1991（平成3）年まで同窓会長を務めました。思い出の一つが、緑ヶ岡校舎にあるブラジルからの石でつくった校歌の石碑です。この年の5月、ブラジルを第2の故郷とした相場眞一さん＝釧中8期＝が来釧しました。同期の丹葉節郎さんとともに、「世界に羽ばたく湖陵生」の願いを込めて、ブラジルから石を運びました。

当時、校長だった町田康雄さんは、富士見校舎での設置に向けて、働きかけましたが、「まもなく校舎が移転する」ことを理由に、北海道教育委員会からなかなか許可が下りませんでした。それでも町田さんの熱意が通じ、1989（平成元年）3月20日に除幕式が無事に行われました。（詳しくは「くまざさ45号」参照）校歌は長内さんの直筆です。長内さんは、3カ月もの間、書を練習しました。長内さんは「今思えば、幸せな巡り合わせでした」と振り返っています。

また、校舎の改築では、「曲線を生かした斬新な校舎を熱望したようでした。残念ながらそれはかなわなかったのですが、正面玄関上の大時計になりました」と思い出を語ります。

長内さんは、創立80周年・定時制70周年並びに校舎改築落成記念事業協賛会会長を20年前に務めました。それだけに、100年を迎えた今年、特別な思いがあります。長内さんは、「〝湖陵健児〟をたくさん輩出し、各方面で活躍しています」と話すとともに、「母校の発展のため、次の100年の大計をみなければいけません」と、湖陵高校の未来を考える大切な年と考えています。また、生徒たちへは、「校訓の誠、愛、勇をしっかりと身につけて、先生や先輩、さらに社会から教えられたことを全身で受け止め、強い連帯感を持って、不撓不屈（ふとうふくつ）の精神で羽ばたいてほしい」とエールを送ります。今年は辰年、「昇竜のごとく、世界で活躍する同窓生」を願っています。

（湖陵30期　星　匠）

元同窓会会長
長内（おさない）　宏（ひろし）さん（釧中33期）

目次

記念式典・祝賀会は9月29日 ……2頁
記念事業各部会長紹介……3頁
誠愛勇から　湖陵17期の巻 ……4・5頁
平成23年度総会・刊行案内 ……6頁
卒業して分かる・あの日あのとき ……7頁
金子享氏死去・通学区制・編集後記 … 8頁

湖陵同窓会HP　http://kushiro-koryo.hp.infoseek.co.jp/

創立100周年・定時制90周年
記念式典・祝賀会は9月29日

創立100周年・定時制90周年の行事が決まりましたのでお知らせします。

①記念講演

日時：2012年6月26日（火）
13時30分から15時まで

場所：釧路湖陵高校体育館
釧路市緑ヶ岡3－1－31

講師：川原尚行氏

プロフィール：1965年福岡県北九州市生まれ。九州大学医学部卒業。在タンザニア、スーダン日本大使館で医務官として勤務。2005年に外務省を辞職後、スーダンでNPO法人「ロシナンテ」設立、医療活動を中心に支援活動しています。年に数回しか日本に戻りません。高校、大学時代、ラグビー部のキャプテンとして活躍。現在も、そこで培った先輩、後輩のつながりを大切にしながら活動を続ける情熱家です。

申し込み：5月31日まで

②提灯行列

※湖陵祭の行灯行列に参加します

日時：2012年7月13日（金）18時集合、18時30分から20時30分

場所：釧路湖陵高校グラウンド（集合後、市内行列）

申し込み：6月13日まで

③記念式典

日時：2012年9月29日（土）13時から16時

場所：釧路市民文化会館
釧路市治水町12―10

申し込み：8月31日まで

④記念祝賀会

日時：2012年9月29日（土）
18時から

場所：釧路市観光国際交流センター
釧路市幸町3－3

参加費：5000円

※定員になりしだい締め切ります。

申し込み：8月31日まで

⑤記念誌発行

内容：写真で振り返る大湖陵史、沿革、各期による想い出のページ、部活動、記念式典など約400ページ

頒価：8000円

発送：2012年12月（予定）

申し込み：9月30日まで

そのほか、寄付協賛金の受付もしております。

問い合わせ

釧路湖陵高校同窓会事務局
電話＆FAX
0154（41）1090
※電話は平日の17時30分以降
メール
koryo10090@ebony.plala.or.jp

冬の日の富士見校舎

おしゃべりしながら楽しい昼食

富士見校舎での合格発表

記念事業支える各部会長紹介

記念式典、祝賀会に向けて、実行委員会各部会では、成功させようと、連日打ち合わせや作業をしています。各部会長を紹介します。

式典記念講演部会長　西村 智久

創立１００周年式典記念講演部会の西村智久（31期）です。6月26日の記念講演から始まり、7月の湖陵祭の行灯行列に参加することで、１００周年のＰＲと在校生との交流を深め、9月29日記念式典を挙行いたします。ホップステップジャンプで頑張ります。よろしくお願いいたします。

祝賀会部会長　天方 智順

湖陵34期の天方智順です。この度創立１００周年実行委員会の中で、ありがたくも祝賀会部会長を仰せつかりました。記念祝賀会がお一人でも多くの参加者の皆様と共に楽しい時間を過ごしていただける場になるよう、全力で取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

富士見校舎の職員室

富士見校舎校門への道

協賛金部会長　白崎 義章

湖陵28期卒業の白崎です。今回協賛金部会を担当することになりました。昨今の経済状況は厳しいところでありますが、各事業実施に必要な財源として協賛金にご理解を頂くと共にご協力をお願い致します。

富士見町のいわゆる中川塾

総務部会長　水口 喜文

この度、記念事業実行委員会総務部会を担当することになりました36期水口です。総務部会は皆様の窓口となります。多くの方に１００周年、90周年の事業を知っていただきご参加頂きたいと思っておりますので、各期幹事の皆様、情報収集よろしくお願いいたします。

記念事業部会長　柴崎 主税

記念事業部会では、これまでの輝かしい歴史を振り返るとともに、これからの母校の発展を願い、記念碑（米坂ヒデノリ作「コタンコロカムイ」）と記念誌を贈呈します。また、在校生の教育及び学校運営に必要と思われる備品（大型スクリーン等）を寄贈する予定でおります。

記念誌部会長　高井 博司

記念誌部会を担当いたします、元教員の高井博司（湖陵6期）です。百周年という輝かしい節目に、全同窓会生の記憶にも記録にも残るような記念誌を目指しますので、各期よりの原稿や写真のご提供をお願いいたします。お一人でも多くの同窓生のご購入を願っております。

財務部会長　佐藤 敦

財務部会を担当させていただいております36期卒業の佐藤敦と申します。何千万円もの会計を執行する立場でありますので、相互牽制に気を配り、気を引き締めて会計管理を行いたいと考えております。よろしくお願いします。

誠愛勇から
湖陵17期生の巻

絆を強く長く

湖陵17期　波田地（はたち）　昭彦（あきひこ）
釧路市在住

開校50周年に

戦後生まれの私たち17期は、昭和37年4月、伝統ある憧れの湖陵高校に入学した。

前年は無試験、今年も無試験で入学できるよう神に祈り、ろくに受験勉強もせず、厚かましくも名門湖陵を希望。入試発表で自分の名を見つけた時の喜び、感激だけは、今も脳裏に焼きついている。その年に湖陵高校は、開校50周年の記念式典を挙行した。

当時、同窓会長であり（釧中1期生）、湖陵梅風塾（中川塾）の塾長でもあった中川久平先生は、その祝辞の中で、「世界だぞ、今や世界は狭くなった。宇宙に君らの大発展せんことを、飛躍せんことを。そして大いにこの湖陵の名を上げ、そして更にこれらの何百倍、何千倍の盛大さをもって湖陵百年祭を迎えられんことを、ひとえに希望して、同窓会長としての祝辞とする（拍手）」と結んでいる。（「釧中物語」より）

あれから半世紀。本年、湖陵は開校百周年を迎えるとの事である。私たちは、あれから50年の齢（よわい）を重ね、高齢者世代に突入した。

高度成長時代

昭和39年、新幹線開通、そして東京オリンピック。世は正にバカンス時代、高度成長時代であった。

植木等（ひとし）は、「俺んとこにこい」と無責任なスーダラ節を唄い、少年サンデーでは、おそ松くんの「シェー」、オリンピックでは、「ウルトラC」なる言葉が流行し、やがて、「ベ平連」なる耳慣れない名に怯え、興奮しながら学生運動に走った時代でもあった。

校内では、喫煙問題、服装規定違反、校則等、今風の学校問題がはしりとなった頃である。しかし、他校よりは校則も厳しくなく、男子は下駄履きで通学し、学校帰りに末広町の喫茶店に自由に出入りできた。

また、晴天の日には、先生に懇願し、授業時間を自習時間に変更し、春採湖でボートを漕ぐことも許された時代でもあった。

行灯行列の題材に多かった新幹線

学校行事としては、湖陵祭。前夜祭としての行灯行列は、その当時の世相を反映し、新幹線、東京オリンピックにちなんだものが多かったような気がする。芸能発表も、各クラスが、それぞれの工夫を凝らし、競い合ったものである。

3年時の夏休みに鶴居村中幌呂で、第1回のサマーキャンプを行ったのも我が期が最初であった。フォークダンスに胸おどらせ、カレーライスを作り、テントの中で、朝まで語り合った記憶がある。

また、2月の厳冬期に、汽車で大楽毛駅へ。阿寒川の橋を渡り、牧場であったと思うが、広大な原野を走り回り、成果はウサギ1羽。卒業アルバムの最終ページに載っているのをみて、悔しく思った。しかし、軍事教練で始まった伝統の兎（うさぎ）狩りは、この年をもってなくなった。

不帰の朋友も

楽しい想い出である筈の修学旅行。津軽海峡を渡り、京都、奈良、高松、小豆島、東京への大旅行であった。小豆島で、学友K君が不帰の客となり、翌年からは、四国、小豆島への日程は取り止めになった。今も、小豆島から瀬戸内海にいっぱいに沈む夕日が真っ赤に染めた風景を想い出す度に、私たち17期生の青春時代の心のいたみでもある。

我が期は、朋友の綿貫健輔君が、三十代より市政に参加したので、4年毎に集い、同期の結びつきは強く、早くから同期会を結成して頻繁に集まりを持っていた。

昭和60年に卒業20周年記念同期会をオリエンタルホテルで、平成7年に30周年記念を、そして平成元年と同11年の当番期幹事での同期会を、川湯、阿寒湖、札幌、東京、十勝川等々で開催してきた。

平成18年10月8日、「還暦を祝う会」という名目で、札幌近郊が集まりやすいとの希望により、札

クラス対抗芸能発表

平成18年に開かれた還暦を祝う会

幌湖陵会会長である花田孝麿君が中心となり、定山渓グランドホテル「瑞苑」で行われた。当日は、台風の余波の中、全国各地から91名が参集した。

30名の物故者に対する黙とうで朋友の鎮魂を祈り、栗林延次君（同窓会会長）の乾杯、釧路市長の綿貫健輔君の中締めの挨拶、二次会に移り「大人の湖陵祭」「湖陵～昔、今そして明日」のビデオ上映、当時、湖陵高校校長である数馬田敏君のスピーチ。たちまち18歳の高校生にタイムスリップ。盃を重ねる毎に、高校時代の愛称、あだ名が飛び交い、齢60を過ぎたオジサン、オバサンが、○○君、○○ちゃんとは？血気盛んな少年、見目麗しき少女の顔に戻り、朝方まで、昔話に花を咲かせた。

大人の湖陵祭

我々17期が、湖陵に携わったイベントの一つで、今も集う度に、想い出すのは、「大人の湖陵祭」である。建築後30年余りを経過し、老朽化の進んだ二代目校舎が、富士見町より緑ヶ岡のゴルフ場跡に、移転改築することとなり、平成2年9月23日、二代目校舎の「お別れ会」をという話が出た。

前年に、当番期幹事として、同窓会を大いに盛り上げたということで、私たち17期が中心となり、『現校舎に感謝を込めて、さようならと』と言うべく、「大人の湖陵祭」なるものを企画した。何度の会議を重ね、当日は、校舎に赤色のリボンをかけ、大きな風船を掲げるという奇抜なアイデア。釧中より湖陵の先輩たちの汗の染み込んだ剣道場の板で作成した「釧中・湖陵」の文字を刻印した通行手形。校舎の職員玄関の大理石を砕いて作った「湖陵魂」を作成、販売したが、即日、完売した。午前9時から校舎開放。16時30分より、屋外グランドで校歌、応援歌の斉唱に始まり、日が暮れる頃には、赤々と燃えるファイヤーストームを囲み、フォークダンス。千人を超える釧中・湖陵生が全道各地より集い、青春時代の当時に戻り、意識の下にあったいろいろなことを想い出し、懐かしさに浸ることができた一日であった。

還暦を祝う会を記念して作成した同期生名簿と卒業アルバムを見比べた。すでに一割を越える朋友が不帰の客となり、鬼籍に入ったことを知り、改めて「光陰矢の如し」あっという間の50年であった。くしくも昨年、日本は想定外の東日本大震災に遭い、その世相を表す漢字として「絆」が選ばれた。

私たち17期生の仲間の絆は、「湖陵魂」「誠・愛・勇」とともに、強く長く継続することを願うものである。

今秋に行われるであろう湖陵百周年は成功裏に終わることを確信し、青春の心を持ち続けたいものである。

大きく携わった「大人の湖陵祭」

平成23年度総会
思い出話に花

平成23年度釧中・釧路湖陵同窓会が昨年8月13日㈯、釧路キャッスルホテルで開かれました。総会には約500人が参加し、旧交を温めました。

総会では、校歌を合唱、亡くなった同窓生や東日本大震災での犠牲者に黙とうをささげたあと、栗林延次会長（湖陵17期）が100周年記念式典への協力を求めました。このあと、釧路湖陵高校の田川芳紀校長、釧路市の蝦名大也市長（湖陵29期）が祝辞を述べました。

懇親会では、チアリーダー、合唱部、器楽部がステージで演奏や合唱、パフォーマンスを披露していました。

今年の総会は、8月11日（土）の予定で、30、40、50期が当番です。

元気いっぱいチアリーダー

澄んだ歌声を披露した合唱部

息のあった演奏を繰り広げる器楽部

あいさつする栗林会長

乾杯で懇親会スタート

○刊行案内
『挽歌』物語―作家原田康子とその時代―

昨年10月、盛厚三（もり・こうぞう）著「『挽歌』物語―作家原田康子とその時代―」（釧路新書、頒価735円、藤田印刷㈱）が発行された。著者の盛さんは、昭和22年釧路市生まれ。旭小、北中、湖陵定時を経て進学上京し、伊勢丹デパート、バーバリーの三陽商会で洋服デザイナー、現在は独立し埼玉県春日部市民。「原野の思索家　長谷川光二」研究で平成5年に文芸誌「釧路春秋賞」受賞。同人誌「北方人」を主宰。盛氏は北海道ゆかりの近代文学研究家として欠かせない実力者だ。釧路市の書店、港文館で発売中。

小説「挽歌」は大ベストセラーとなり、昭和32年映画化され、全国で挽歌ブームが起こり、釧路は憧れの地に。その時の社会現象をこの新書で詳しく取り上げ、時空を超えた名作の価値が描かれている。当時高校生の毛綱毅曠（もづな・きこう、湖陵12期）は、挽歌の中の建築家に憧れ、建築科に進学し、日本を代表する建築家として各地に作品を残し、釧路を有名にした。文学には人を何かに向かわせるロマンの力がある。

（湖陵18期　田巻　恒利）

卒業して分かる

・正座に強い

今は座椅子や椅子が用意される法事などの会合になったが、昔は正座が普通であった。そんな時にも、私たち釧中卒業生は耐えられる。なぜなら剣道教師の男澤哲夫教諭は、罰則でなくとも、よく正座をさせた。

１９５３（昭和28）年２月22日の本校舎火災にも焼失をまぬかれた剣道場（柔、体育も）はそんな修練のおかげ？

もっとも「立て！」と言われても全員がよろよろしたのは当然のこと。

・入学試験に退場

軍国主義真最中の１９４３（昭和18）年入試の控え室は釧中工作室。いろいろな機械が置いてある。私の小学同級生、佐藤尚武（なおたけ）は、当時の連隊区司令部部長の長男でおとなしい。何の気なしに大きな機械にそっとさわった。たまたま入ってきた工作の佐々木教諭が見とがめて、退場を命じた。

尚武君は転校していったし、教諭もまもなく転勤していった。

昨今の成人式に酒を持ち込み騒ぐ生徒などのニュースをテレビで見たり聞いたりすると、どちらが悪くてそうなのか、時代がどうなっているの、そんなことを考えさせられる。

・成人式

敗戦後に制定された「成人式」に感慨はない。

大学生になっての東京都内にいたが、帰郷して釧路市での成人式にも出席しなかった。昔ならば徴兵検査とて甲乙丙丁に区分され、喜んだり悲しんだり？

選挙権を与えられて投票所へ父の尻についていった記憶がある。平民の父が陸軍歩兵伍長を名誉とした三度の出征に祝福された席で演説したのを聞いただけ。

なによりも、釧中生として白線二本の帽子を被った時と、級長の白線を上着の袖口に付けた時である。自転車に乗り北大通を往復し、右へ左へと白線づきの腕を上げたものだ。幼稚といえる。勲章つけた兵隊さん並みであった。

同年兵の誰よりも偉いこと。それは勤労動員の作業でも、級長は作業をせずに監督へ回れるのだから、楽なのであったヨ。

同位でなく、上位になること。それが学校であれ職場であれ、憧れさせ励ませるのだから。就職試験も、その後も、ライバルは隣にいるのだヨ。親友といえども恋の争いでは敵なのだヨ。むしろ一番の敵といえる。

まあ卒業後に恋をしてすぐに分かるヨ。

昔からの歴史でも、小説でも山ほどあるから。

（釧中32期・湖陵1期　奥田　達也）

あの日あのとき
日本傳講道館柔道（その３）

釧中19期
似内重喜

二学期が始まって各部の報告会があった。幹事の斉藤克巳は涙の報告。途中で立ち往生してしまった。光輝ある釧中柔道史に泥を塗ってしまって、卒業までの間、肩身の狭い思いをした。汚名挽回のため、来年は頼むぞと卒業まで後輩とともに汗を流すべきなんだろうが、その気力も失せてしまった。全く自分に適さない柔道を、それでも5年間続けてきて、ヤレヤレこれで解放されたという思いが強かった。

伝統を引き継いだ者には、守り通して損なう事なく、次に渡す義務があり、仮にも瑕（きず）つけるような事があってはならないのだが、その責任感が希薄だった。伝統の上に胡座（あぐら）をかいていた訳である。どうせまた勝つんだ、という幻想。

トップは常に狙われ、追われているという危機感の欠如が招いた当然の帰結であったろう。挽回（ばんかい）できなかった私の責任であり、戦犯第1号である。翌年は2位だったようで、その後はどうなったか承知していない。負け癖がついてしまったかも。5年間、可もなく不可もなく過ごしたが、これが唯一、釧中にかけた迷惑というか、不名誉事項であった。

私が入部した時の5年生は、神さんがキャプテンで、田村亀太郎さんがいた。1年生の目から見た神さんは、中学生というよりは親父さんというような大人に見えた。4年生では渡辺二郎さん。柔道部では珍しい白線二本（級長）で、5年生の時は校旗の旗手を務めた文武両道の達人。3年生には、渡部清太郎さん。この人は市内の辻整骨院に寄宿して通学していた。辻先生は六段で、釧路では最高段者。道場があって渡部さんは代稽古もしていたようで、私の知る限り、釧中では一番強かったと思う。2年生では朽本さんと田村亀太郎さんの弟の亀次郎さん。そして1年生は私と斉藤克巳というメンバーが、その年の中心になって支えてきた。

2年生の時、渡部清太郎さんに稽古をつけてもらった事がある。素晴らしい業師で背負い投げを食った。両袖をからめた一本背負い。これでは受身ができず、モロに畳に打ちつけられた感じ。痛いも何も「ウッ」と言ったきり息ができない。吸う事はできるのだが、吐けないのだ。胸が爆発して死ぬかと思った。こんな見事な投げられ方は、最初にして最後、この一回だけだった。このような先輩たちが伝統を守り通してきたのだから、実力は我々より上という事になる。長い間柔道をやってきたように思うが、実働は釧中の5年間と入隊前の半年で、あとは時代が時代だったので、時々やったり、やらなかったりで意外と少ない。現在のように、世界選手権やオリンピックを目指して、日夜猛練習に励んでいる人たちからみれば、考えられないだろうが、そんな時代もあったという事だ。裏から手を回したり、献金した訳でもなし、正規な試験も受けたが、相手が一人だけだったという、今時考えられないような事態も時代と言うべきか。ただ最後の昇段は、私も腑に落ちないが、これも先方のご都合だろう。完全な空証文だ。

免許状と左肩の曲がった骨、清太郎さんの背負いでズレた背柱。これはまだ腰痛の原因（もと）で不自由している。

（続く）

通学区制

中卒者は保護者の居住地によって受験高校が決められている。これは今も昔も変わらない。

今は大学区制で湖陵高校に釧路市、白糠町、釧路町、鶴居村などから通うが、高校の男女共学制が始まった昭和24年から昭和39年までは小学区制で、旧釧路市内から北中校下と東中校下の一部の生徒は湖陵へは入学できず、江南高校を目指した。

私の印象に過ぎないが、江南は光陽町へ移転する昭和34年まで城山（現教育大）にあり、住吉、城山、大川町、鶴ヶ岱地区および、根室本線の釧路駅から尾幌駅までも江南の通学区だった。

一方、釧路駅から根室本線の直別駅まで、雄別鉄道沿線、釧網本線の細岡駅までが湖陵の通学区だった。このように通学区は、基幹産業や宅地開発の時代変遷を受け、変化していった。

我が5人姉弟は、全員北中校下の旭小を卒業したが、この通学区制の変更や本人の学力により、年の順で高校は江南・湖陵・湖陵・希望学園・江南である。私が4人の子育てを終えてみて、当時の親たちの苦労が偲ばれる。

（湖陵18期　田巻　恒利）

言語学会の重鎮　金子享さん死去

昨年9月11日、湖陵4期（昭和27年卒）で千葉大名誉教授の金子享氏がお亡くなりになられました。金子氏は1933年（昭和8年）釧路市生まれ。東京外国語大学を卒業後、北海道学芸大学釧路分校（現・釧教大）の助手を経て、千葉大文学部教授としてアイヌ語やニブヒ語など、極東の先住民族・少数民族も含めたユーラシア言語文化論を研究されました。日本言語学界の重鎮として理論研究の業績を重ねられるとともに、世界の先住民言語の存続や言語弱者の未来について常に心を砕いておられた方です。1999年に千葉大を定年退官してからは、スイス・ライプツィヒ大学の客員教授や中国・湖南大学名誉教授も務められました。専門は言語学（類型論・先住民族言語研究）。主な著書に「先住民族言語のために」（草風館）などがあります。謹んで氏のご冥福をお祈りいたします。（湖陵30期　西村　貞広）

思い出のワンカット

1990（平成2）年の入学式

編集後記

今年もこの時期、多くの出会いと別れ、巣立ちの季節を迎えて、希望に胸を膨らませて旅立つ卒業生に心からエールを送ります。1月、東大の学長がこの先5年後をメドに、卒業を秋に移行する談話を発表しました。入試合格電報は、やはり『さくら満開、花開く』でしょう。これが秋になるとどうなるのか、などと余計な心配をしています。国際化もよいが、ここは慎重に考えたいところです。タカアンドトシのギャグではないが、『欧米か?』です▼このたび、「くまざさ」は発刊60号を数えて、無事に編集作業が終わるところです。先輩の薦めで編集に係わらせていただき10年が過ぎようとしています。非力、浅学な自分に出来ることがあるのか、手探りの10年でもありました。が、おかげさまで同窓生、先輩諸氏の近況、ご活躍等、多くを知る機会となった事にたいへん感謝をしています▼この間、クラスや同期の仲間と交流の輪を広げ、ご多分に漏れず還暦修学旅行と銘打ち、東京方面の級友たちと横浜、鎌倉へと出かけることになり、会うこともないだろうと思っていた旧友との、懐かしい再会を果たし、貴重な時間を持つことができました▼いよいよ創立100年を迎える今年は、全国各地から記念式典に大勢の同窓生がはせ参じる事と思います。9月29日は秋分の日のすぐ後ということで、真西に太陽が沈みます。幣舞橋の河口の真ん中に真紅の太陽が輝きを見せます。『夕日のハイボール』は今、釧路をあげて売り出し中です。もちろん福司も待っています。再会を果たし、祝杯を大いに重ねたいものです。手ぐすねひいて今から楽しみにしています。（湖陵20期　増子　正樹）

前列右から奥田達也、田巻恒利、後列右から渋谷倫之、星匠、須貝喜治、西村貞広

釧路湖陵高校
〒085－0814
釧路市緑ケ岡3丁目1番
TEL（0154）43－3131
ホームページ
http://kushiro-koryo.hp.infoseek.co.jp/

くまざさ編集委員会

同窓会会長　栗林延次（湖陵17期）
同窓会幹事長　島本幸一（湖陵19期）
同窓会会計長　佐藤文昭（湖陵22期）
編集委員長　星　匠（湖陵30期）
編集委員　川端紀一（湖陵11期）
編集委員　増子正樹（湖陵20期）
編集委員　渋谷倫之（湖陵26期）
編集委員　西村貞広（湖陵30期）
編集委員　須貝喜治（湖陵49期）
編集事務局長　田巻恒利（湖陵18期）

くまざさ編集委員会
〒085－0014
釧路市末広町2丁目4番地
栄屋旅館内
TEL0154（23）0241
手動切替FAX
0154（23）0242